



JFMA FORUM 2012

キャンパスFM業務のセルフアセスメント

JFMAキャンパスFM研究部会

藤村達雄



2012.02.08

目次

1. プロローグ

- 1-1. キャンパスFM研究部会の活動
- 1-2. キャンパスFMガイドブック2000～2008の出版
- 1-3. セルフアセスメントへの取組み

2. 大学FM業務の必要性と社会背景

- 2-1. 大学経営を取巻く現状と課題
- 2-2. 大学全入と競争激化の時代
- 2-3. 大学の機能別分化
- 2-4. 国立大学改革強化推進事業

3. キャンパスFM業務セルフアセスメント

- 3-1. セルフアセスメントの目的
- 3-2. セルフアセスメントの活用
- 3-3. セルフアセスメントの実際

4. 分析・評価

- 4-1. プレ調査概要
- 4-2. 総評の考え方
- 4-3. 調査結果総評
- 4-4. 調査総括
- 4-5. 今後のスケジュール



1. プロローグ

1-1. キャンパスFM研究部会の活動

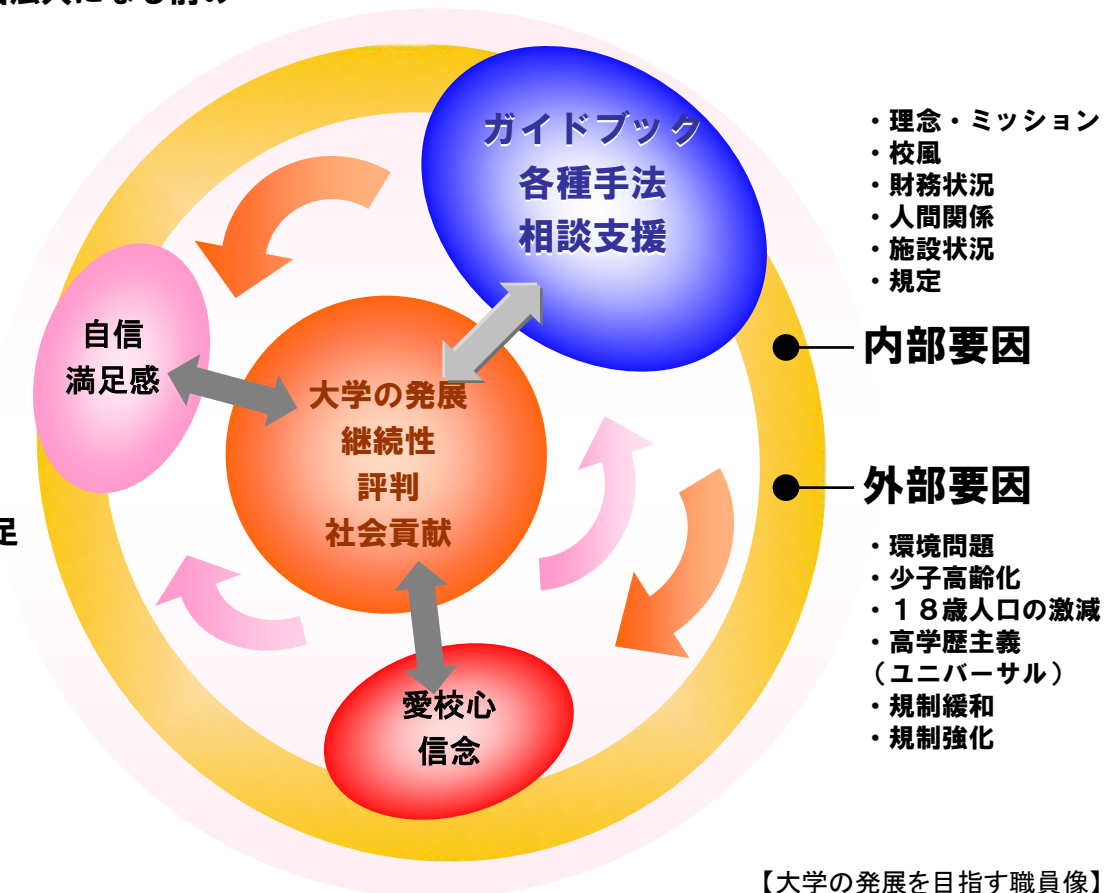
【活動目的】

■ JFMAで最も歴史ある部会です

キャンパスFM研究部会はJFMAが社団法人になる前の
1987年から活動を続けており
JFMAの最も古い部会です

■ 大学施設管理職員の サポートを目的とします

この部会では大学の発展を目指す
大学施設管理職員をガイドブック・各種
手法・情報交換等によってサポートする
ことで、愛校心・信念を醸成し自信・満足
感を発現させることを目指しています



【大学の発展を目指す職員像】

1-1. キャンパスFM研究部会の活動

【アクションプラン】

■ 啓発普及活動

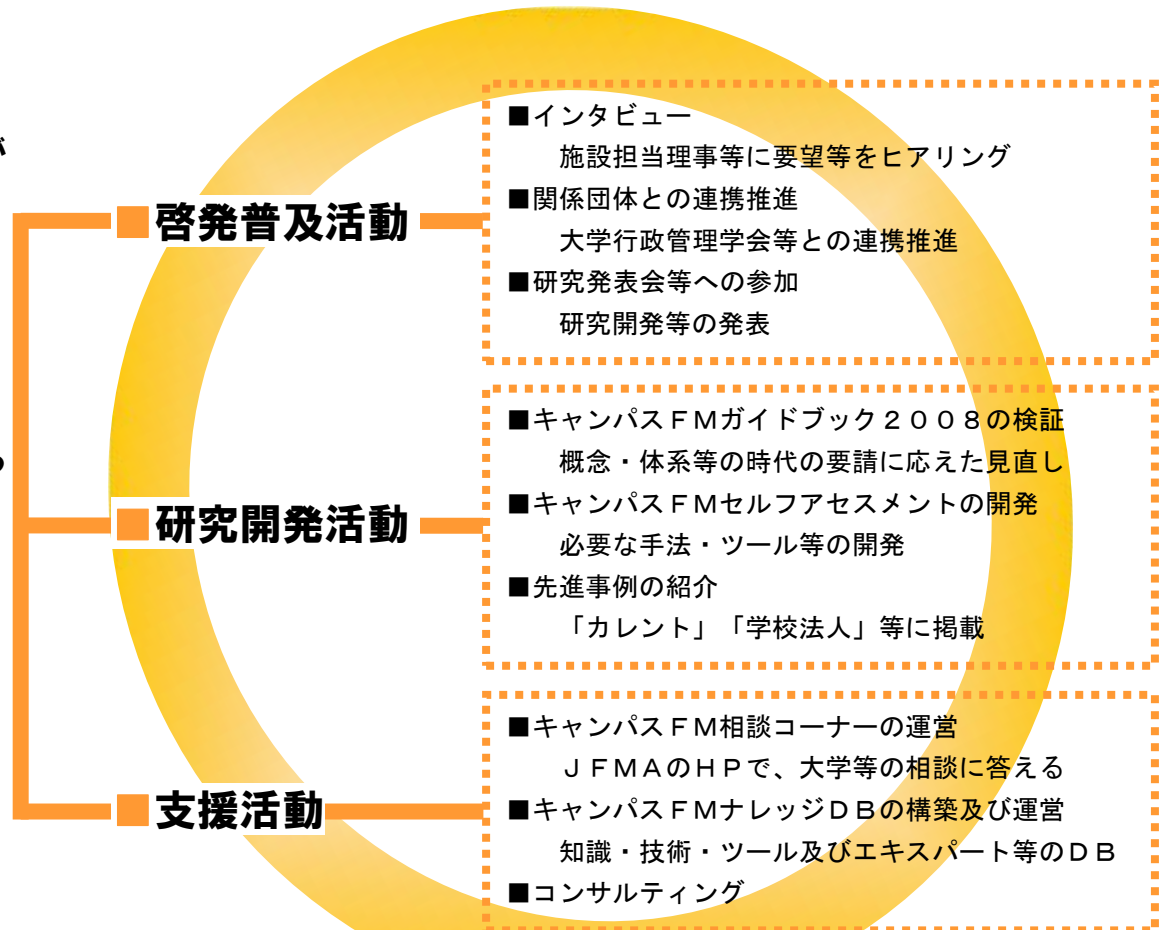
大学の経営陣並びに施設及び財務の職員が
キャンパスFMを意識し
その必要性を認識する

■ 研究開発活動

キャンパスFMを実施する際に必要となる
概念・手法等を確立させる

■ 支援活動

施設に係る業務の変革や
キャンパスFMの創造を目指す大学等を
支援するために活動を行う



(平成19年12月11日策定)
(平成23年1月12日改訂)

【アクションプラン概要】

1-2. キャンパスFMガイドブック2000～2008の出版

【キャンパスFMガイドブックの概要】

■ FMの体系化

大学経営におけるFMの体系化を行う

■ 業務のあるべき姿の明確化

キャンパスFMの必要性 有効性を理解させ
キャンパスFMに必要な業務・業務手法等から成る
業務のあるべき姿を明らかにする

■ 必要な知識・技術・ツールの網羅

必要な知識・技術・ツール等を
網羅的に整理し
キャンパスFMの更なる浸透を目指す

CAMPUS FM GUIDEBOOK 2008

■ C-FMガイドブック 2000から2008へ

2000年発行の「キャンパスFMガイドブック」は、国立大学の法人化と相まって民間的手法の導入と言う視点において、その一助となりました。キャンパスFMガイドブック
そして、その後「大学経営」という意識が定着し、2008年版には、これを踏まえ、大学経営を本格的に支援して行くスタンスに立って編集しました。

■ 大学経営の支援ツール

一般企業のような経営管理を実施して行くことが難しい大学において、キャンパスFMを実践していく上で、必要な知識や技術を身に付け、各大学が掲げる理念を具現化するために寄与するものとします。

■ 文書化

業務内容、業務手法等を文書化することで、FMの業務をより具体的に理解していただき、読書の方に、自分達の業務を洗出し、業務プロセス他関係部署との関係及び業務範囲の線引き等を文書化することの必要性を認識していただけます。

■ 管理職をターゲット

原則として、理事会を直接サポートするFM部門の管理職である部長・課長をターゲットとします。初級や中級の担当者には、スキルアップの動機付けになるような情報提供をしていきます。

1-3. セルフアセスメントへの取り組み

■ セルフアセスメントの使命

- ・ キャンパスFMのミッションの確認
- ・ キャンパスFM組織の見直し
- ・ キャンパスFM業務の改善
- ・ キャンパスFMスタッフの資質向上

■ セルフアセスメントの構築

- ・ 診断・評価手法の確立
- ・ 改善方策へのアプローチ
- ・ FM業務のスパイラルアップの実現

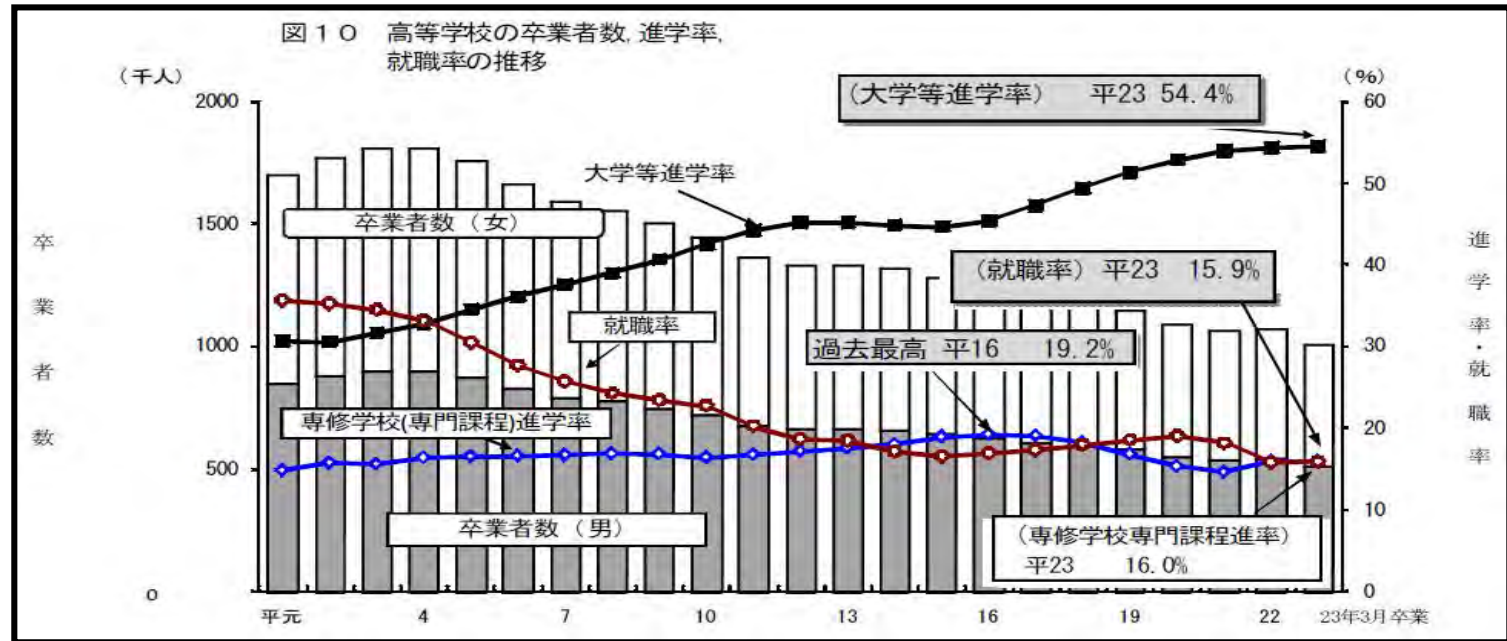
Campus FM Self Assessment

大項目	中項目	小項目	評価内容	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1. 統括管理	1-1組織体制づくり	1-1-1理事層との関わり	<p>【総務・管財にFM組織がない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FM組織がなくとも、そのような業務が推進できているか <p>↓</p> <p>【担当と一般的な施設担当の業務推進の違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全学的視点で戦略・企画し業務遂行しているか？ ②目標にベストプラクティスを掲げて計画・実行しているか？ ③中長期計画を掲げ、それを単年度に落とし込み、PDCAを廻しているか？ <p>【総務・管財にFM組織がある場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内組織の編成状況 ・ 大学の学風を考慮したFM組織体制（大学の個性） →ex. 名古屋大学のFM推進室 大阪大学キャンパスデザイン室（木多先生） ・ アウトソーシングに対応した組織体制 <p>【FM戦略的組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名古屋大/施設計画推進室、阪大/キャンパスデザイン室など ・ 上智大100周年記念事業計画組織など 	<p>障を特定した担当理事はいない</p> <p>施設管理担当役員が施設管理に関する方針や計画を打ち出している</p>	<p>理事層にFMを分掌する役員が配置されている</p>	<p>担当役員とFM部署が連携して戦略を構築している</p>	<p>FM戦略の達成状況を理事会等において報告している</p>	
		1-1-2ユーザーとの関わり	<p>FM部門は、施設利用者にFM戦略を理解させるためにFM戦略を策定し、それに沿ったFMを実施することで、大学が掲げる方針・ビジョンに貢献する。（P111）</p>	<p>施設利用者視点の施設対応ではない</p>	<p>施設利用者の満足状況に対応する体制を整備している</p>	<p>施設利用者の満足状況の分析を行い、個別対策を立てている</p>	<p>施設利用者によるFM戦略等を選定させるような活動を行っている</p>	
	1-2人事管理	1-2-1人事考課	<ul style="list-style-type: none"> ・ FMの業務や目標を設定した上で、その達成度をみる人事管理 ・ インハウスでの推進+アウトソーシング業務のマネジメント ・ 職位に応じた評価制度があるか ・ コア組織を中心に、関連組織と横断的な業務遂行をしているか 	<p>学内統一的な評価システムは構築されていない</p>	<p>学内統一的な人事考課が行われている</p>	<p>学内統一的な考課システム（業務目標の設定と達成度による評価）が構築されている</p>	<p>FM部門においては採業務に特化した階層別考課システムが構築されている</p>	<p>全学的観点から採業務と他の部門やアウトソーシング先との横断的な業務遂行での考課システムを構築し運用している</p>
		1-2-2SD	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形態別教育訓練：上司が部下に対して日常の業務を通じて、能力・熟練の向上とそれらが発揮されるよう教育、指導することである「OJT」や、職場外で実習と関連付けながら、業務から一時的に離れて、主として集合指導の形で職場外の専門指導者が行う「Off-JT」と区分される。 ・ 階層別教育訓練：新入社員から経営者に至る全階層が、各階層に応じて必要な教育訓練で、新入職員研修、中堅職員研修、管理・監督者研修（TW1）、管理職訓練（M1P）、経営者教育（CCS）等がある。 ・ 生涯職業能力開発：経済社会の行動変化等に対応して、 	<p>SDについては、特に意識した活動を行っていない</p>	<p>OJTや階層別能力開発としてのOff-JTを行っている</p>	<p>目標管理システム等を導入し、職員の自主的な業務改善や自己啓発等を促すことを行っている。</p>	<p>FM業務に特化した階層別OJTを行い職員の能力開発が促進されている</p>	<p>全学経営視点に立ったFM担当理事の能力開発SDメニューが用意されている</p>



2.大学FM業務の 必要性と社会背景

2-1. 大学経営を取巻く現状と課題



【文部科学省 学校基本調査-平成23年度調査結果の概要(初等中等教育機関, 専修学校・各種学校)】より

社会的課題

- ・ 大学全入時代の到来
- ・ 大学の機能別分化



学生の確保
と総合的支援

経済的課題

- ・ 世界経済低迷による
年収の相対的減少
- ・ 大学資産の的確な運用



効率的な経営の必要性

環境的課題

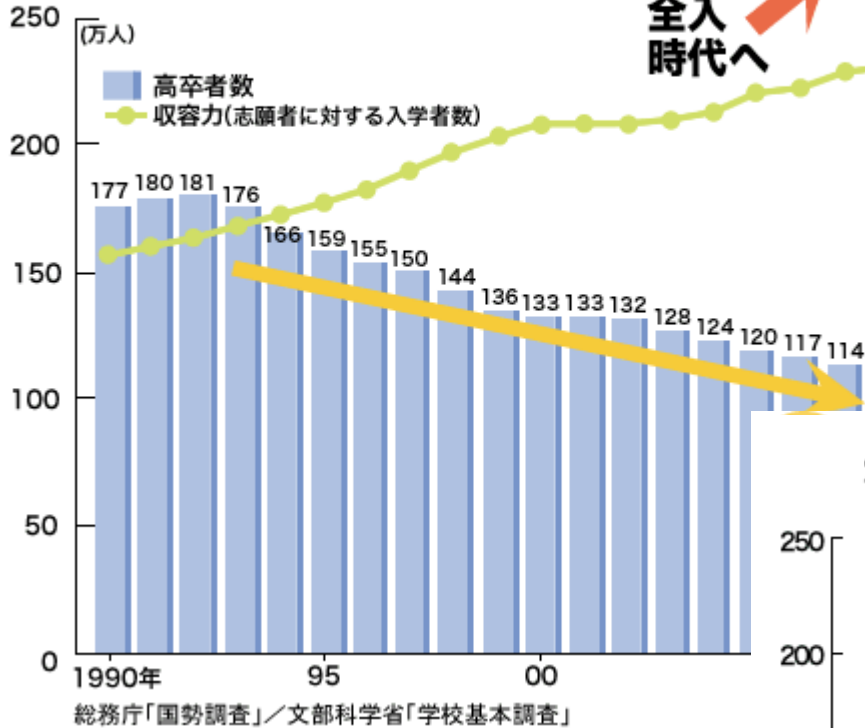
- ・ CO₂排出量の削減
- ・ 施設の省エネルギー運営



環境配慮活動の推進

2-2.大学全入と競争激化の時代

高卒者数と
収容力(大学+短大)



■大学の倒産

「私立学校の経営革新と経営困難への対応」

平成19年8月1日

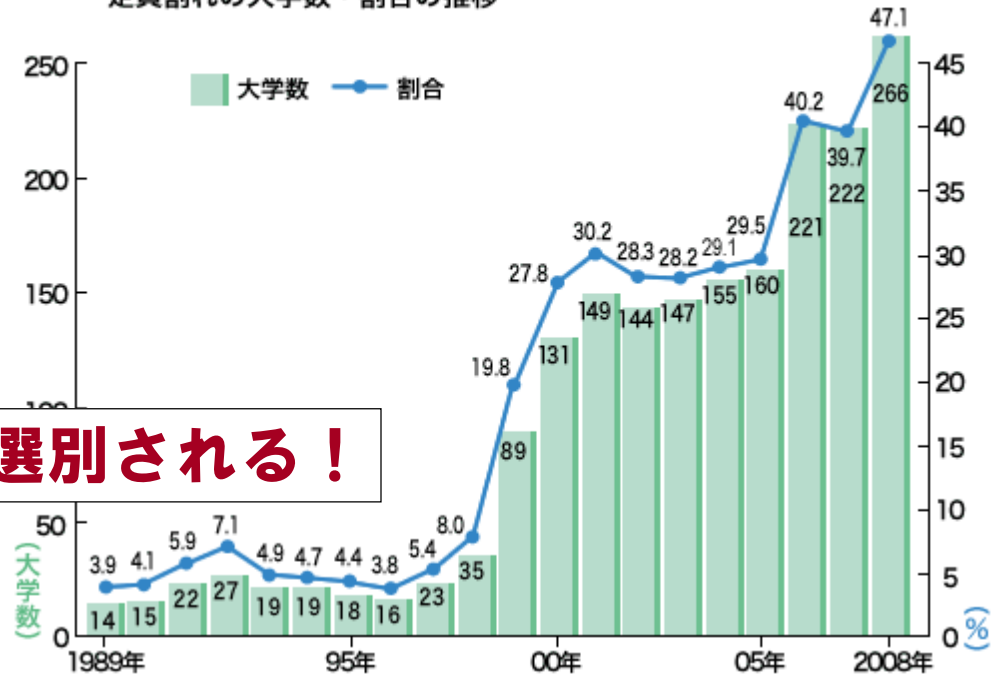
日本私立学校振興・共済事業団」

経営判断指標

レットゾーン・イエローゾーン

《 http://www.shigaku.go.jp/s_center_saisei.pdf 》

定員割れの大学数・割合の推移



大学が選別される！

2-3.大学の機能別分化

中央教育審議会答申

「我が国の高等教育の将来像」

平成17年1月28日

新時代の高等教育は、全体として多様化して学習者の様々な需要に的確に対応するため、大学・短期大学、高等専門学校、専門学校が各学校種ごとにそれぞれの位置付けや期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究を展開するとともに、各学校種においては、個々の学校が個性・特色を一層明確にしていかなければならない。

特に大学は、全体として

①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

等の各種の機能を併有するが、各大学ごとの選択により、保有する機能や比重の置き方は異なる。その比重の置き方が各機関の個性・特色の表れとなり、各大学は緩やかに機能別に分化していくものと考えられる。（例えば、大学院に重点を置く大学やリベラル・アーツ・カレッジ型大学等）

18歳人口が約120万人規模で推移する時期にあつて、各大学は教育・研究組織としての経営戦略を明確化していく必要がある。

2-4.国立大学改革強化推進事業

平成24年度予算 国立大学改革強化推進事業 138億円（新規）

・国際的な知の競争が激化する中で、大学の枠を超えた連携の推進や個性・特色の明確化などを通じた国立大学の改革強化を推進する新たな補助金を創設

【ポイント】

文部科学省に設置した「大学改革タスクフォース」における大学改革全体の議論を踏まえつつ、大学改革に積極的に取り組む国立大学法人に対し、例えば、新たな教育研究組織の整備に必要となる基盤整備や大学の枠を超えた連携等による各種システムの統合・開発に伴う経費の支援等、国立大学の改革強化に向けた取り組みを重点的に支援。

（取組例）

○教育の質保証と個性・特色の明確化

－省略－

○大学間連携の推進

－省略－

○大学運営の高度化

・効率的な大学運営のための事務処理等の共同化

・大学情報の一元管理と適性な活用による運営体制の強化

（支援のイメージ）

事務システムの統合等による改修、インターフェイス化など、連携による高度な大学運営に必要となる経費を総合的に支援。

国立大学改革のスピードを加速する仕組みの導入！



3. キャンパスFM業務 セルフアセスメント

3-1. セルフアセスメントの目的

■ ミッション

- ・自大学が目指すFMは？

■ 組織

- ・ミッションに相応しいFM組織とのギャップは？

■ 業務

- ・成果・効果を上げるために欠けている業務あるいはプロセスはないか？

■ スタッフの資質

- ・業務全般を見まわして現スタッフにおいて実施可能か？

Check に基づく Action

■ 組織の見直し

■ ミッションの再構築

■ 業務改善

■ スタッフの資質向上

★内部で自己チェック⇒自らコントロールするプロセスが重要

3-2.セルフアセスメントの活用

● セルフアセスメントを実施することで、以下のような内容に活用できます。

■ セルフアセスメントに基づく類型化

自分の大学のFMのスタイルがどのような特長を持ち、分類されるか把握可能

- ・ 戦略重視型
- ・ ユーザー満足重視型
- ・ コスト重視型
- ・ 環境重視型

■ 大学が目指す姿の確認

- ・ 継続性（経営資源の確保と維持）
- ・ FMのコア業務との一体感

■ アセスメント結果と目指す姿のギャップの明確化

■ FM業務・組織・資質の過不足の確認

■ 改善提案のための手掛かり

3-3. セルファアセスメントの実際

■ 評価内容 1

・「キャンパスFMガイドブック2008」で整理した「標準業務プロセス」に基づく評価内容。

項目	細目	評価内容
統括管理	①組織体制づくり	1-1-1 理事層との関わり 1-1-2 ユーザーとの関わり 1-1-3 組織の在り方
	②人事管理	1-2-1 人事考課 1-2-2 SD 1-2-3 小集団活動
	③FMミッション管理	1-3-1 FMビジョンの策定 1-3-2 FMビジョンの啓発活動 1-3-3 FMビジョンの継承活動
	④基準等管理	1-4-1 標準類（品質・供給・財務の目標管理） 1-4-2 規程類（事務分掌、各種手続き等）
	⑤USR対応	1-5-1 レスポンシビリティ（責務） 1-5-2 アカウンタビリティ（説明責任）
企画・計画	①調査	2-1-1 利用実態調査 2-1-2 ニーズ調査 2-1-3 満足度調査 2-1-4 保有資産調査 2-1-5 施設財務調査 2-1-6 耐震診断 2-1-7 老朽度調査 2-1-8 環境調査 2-1-9 省エネ診断 2-1-10 ハザード調査
	②企画（中期目標、中期計画、年度計画）	2-2-1 中長期目標・計画 2-2-2 キャンパスマスタープラン 2-2-3 アクションプラン
	③計画（各種プロジェクト計画）	2-3-1 施設整備計画 2-3-2 基幹整備計画 2-3-3 環境整備計画 2-3-4 管理運営計画 2-3-5 推進活動計画
財務	①予算編成	3-1-1 予算編成方針 3-1-2 予算編成担当部署との連携
	②予算統制	3-2-1 予算の伝達と動機付け 3-2-2 予算の執行管理
	③ファシリティ資産管理	3-3-1 台帳管理 3-3-2 現物照合

3-3. セルフアセスメントの実際

■ 評価内容 2

項目	細目	評価内容
契約	①資格審査	4-1-1 参加業者の格付け等
	②入札手続	4-2-1 設計契約 4-2-2 役務契約 4-2-3 工事契約
	③契約手続	4-3-1 低入札価格調査 4-3-2 履行保証 4-3-3 前払い保証
	④適正化対応	4-4-1 入札・契約の適正化 4-4-2 品質確保
整備	①情報収集	5-1-1 既存設計図書管理 5-1-2 既存管理運営資料管理
	②設計（基本設計と実施設計）	5-2-1 エビデンスベースドプランニング 5-2-2 コストコントロール 5-2-3 スケジュール管理
	③積算	5-3-1 積算基準 5-3-2 予定価格
	④施工監理	5-4-1 体制 5-4-2 管理マニュアル
管理運営	①維持保全	6-1-1 運転監視 6-1-2 保守点検 6-1-3 修繕 6-1-4 清掃（一般廃棄物）
	②ファシリティ運用	6-2-1 利用者対応（対応状況）6-2-2 スペース管理（マニュアル類）6-2-3 構内交通管理
	③環境保全	6-3-1 環境対策（環境報告書・ISO14001）6-3-2 緑地管理 6-3-3 エネルギー管理 6-3-4 循環型社会形成等への対応
	④安全管理	6-4-1 保安 6-4-2 防災管理 6-4-3 安全衛生 6-4-4 化学物質管理
評価	①達成度評価	7-1-1 自発的な施設年報（アニュアル・レポート）等による点検・評価 7-1-2 大学評価等の制度における施設環境整備の法令に基づく評価
	②業務評価	7-2-1 業務改善報告 7-2-2 第三者評価
情報管理	①管理体制づくり	8-1-1 管理体制 8-1-2 データベース情報
	②情報管理システム	8-2-1 FMベンチマーキング 8-2-2 コンピュータシステム活用

3-3. セルフアセスメントの実際

■ 評価レベル

中項目	小項目	評価内容	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
1-1 組織体制づくり	1-1-1 理事層との関わり	大学経営は施設依存型のもので、施設の不合理、不経済、不適切なものが経営を著しく圧迫し、経営効率を著しく低下させることから、このアセスメントでは経営トップ層が、以下のようなキャンパスFM意識を持ってあっているかを評価する。	経営トップ層は、キャンパスFM意識をほとんど持っていない。	維持保全経費に、毎年一定額以上の予算を計上している。	施設設備の有効活用について、経営トップ層の意思が大学構成員に十分伝達されている。	施設設備の有効活用について、経営トップ層がPDCAサイクルを回して継続的な改善を行っている。	経営トップ層がコア業務である教育研究活動の活性化に資するためのツールとして施設関連業務を捉えて、PDCAサイクルを回している。
	1-1-2 ユーザーモチベーションの維持	キャンパスFM部門は、ファシリティ環境の視点からユーザーである教員や学生のモチベーションを引き出し、維持させていくことが重要な使命であり、ユーザーにFM戦略を理解させるためにFM戦術を策定し、それに沿ったFMを実践することで、大学が掲げる方針、ビジョンに貢献することが求められるこのアセスメントでは、FM部門において、ユーザーのモチベーションの視点に立った対応がされているかを評価する。	施設対応業務において、施設利用者のモチベーションに係る視点が無い。	施設利用者の苦情等に対応する体制を整備している。	施設利用者の満足度状況を把握し、個別対策を立てている。	施設利用者の満足度状況の分析を行い、全学的・中期的観点からの対策を立てている。	施設利用者にFM戦略等を浸透させるような活動を行っている。
	1-1-3 組織の在り方	・施設企画部門・FM調達部門・施設資産管理部門・施設品質管理部門、・FM情報管理部門の5つの部門により構成 ・複数のキャンパスにおける統一的意思疎通	キャンパスFM業務体系に基づく分掌による組織が設置されていない。	キャンパスFM業務体系に基づくいくつかの分掌の組織は設置している。	キャンパスFM業務体系に基づく5つの部門(複数兼務可)が設置されている。	上記5つの部門を一つの部署として、統括するファシリティマネージャーが配置されている。	5つの部門を統括するファシリティマネージャーが経営トップ層と直接対応できる体制になっている。

3-3. セルファアセスメントの実際

■ 基本情報

本セルフアセスメント結果を集計し、皆様にフィードバックさせていただく為、下記事項について御回答願います。

法人について

法人格

1

- ◎ 1 国立大学法人
- 2 公立大学法人
- 3 学校法人

学生規模

1

- ◎ 1 学生収容定員 1万人以上
- 2 学生収容定員 5000人以上、1万人未満
- 3 学生収容定員 5000人未満

学部学科

1

- ◎ 1 総合大学
- 2 理工系大学
- 3 文科系大学
- 4 医歯薬系大学
- 5 教育系大学
- 6 その他大学

記入される方について

職位

2

- 1 理事
- ◎ 2 管理職(部長、課長)
- 3 係長相当職
- 4 係員

職域又は専門

1

- ◎ 1 建築
- 2 電気設備
- 3 機械設備
- 4 土木・造園
- 5 総務
- 6 会計
- 7 その他

大学勤続年数

5

- 1 5年未満
- 2 5年以上10年未満
- 3 10年以上20年未満
- 4 20年以上30年未満
- ◎ 5 30年以上

ファシリティマネジャー資格

2

- 1 有資格者
- ◎ 2 資格者なし
- 3 取得準備中

3-3. セルフアセスメントの実際

■ 評価方法

Microsoft Excel - セルフアセスメント 2011Ver1.xls

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) Adobe PDF(B)

100% MS Pゴシック 10

C7 1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1			【2-1 調査】								
2											
3			2-1-1 利用実態調査							C-FMGB:P125	
4											
5			<p>既存施設の有効活用を進めるには、(1)部屋番号付与 (2)各部屋の面積 (3)各部屋の利用組織及び利用責任者 (4)現地調査に基づく部屋タイプ(用途別)分け等により、利用実態を適切に把握する必要がある。ここでいう組織とは、学部(研究科)、学科(専攻)、講座(研究室)及び事務部、課などの大学組織を構成する単位組織である。</p>								
6											
7			レベル1								
8			1 2 3 4 5	レベル1	各組織の利用面積を把握していない。						
9				レベル2	各組織の利用面積を把握している。						
10				レベル3	上記に加え、(1)部屋番号付与 (2)各部屋の面積 (3)各部屋の利用組織及び利用責任者 (4)部屋タイプ(用途別)を把握している。						
11				レベル4	上記に加え、組織ごとの利用人数を把握し、用途別一人当たり面積を算出している。						
12				レベル5	上記に加え、部屋ごとの収容席数を把握し、部局ごとの収容席数を把握し、部局毎一人当たり席数を算出している。						
13											
14			2-1-2 ニーズ調査							C-FMGB:P125	
15											

ーセルフアセスメントの記入方法ー



4. 分析・評価

4-1. プレ調査概要

★セルフアセスメントの正式公表前に、いくつかの大学様にご協力いただき、プレ調査を行いました。

実施数としては、やや少ないきらいはありますが、初の試みの中で、ご賛同いただいた各大学様には感謝いたします。

■ 実施数

16大学

- ・ 国公立大学 14校
- ・ 私立大学 2校

■ 調査方法

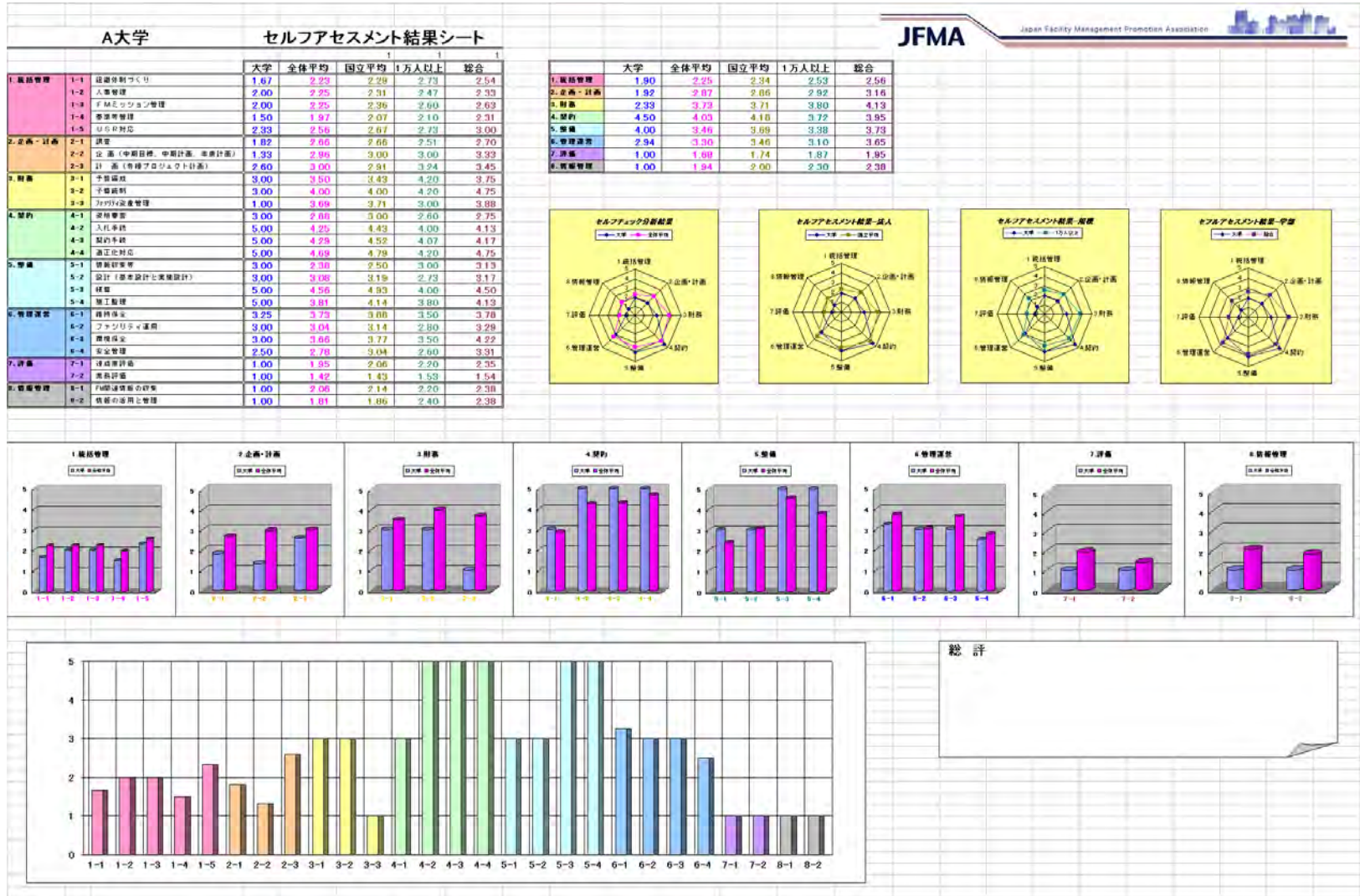
- ・ アンケートデータ，主旨説明資料をメール送付，持参などで配布。
- ・ 改修後，データ解析を行いました。
- ・ 分析結果は，全て匿名にてデータ処理。

■ 回答方法

- ・ ご回答いただいた大学様には，分析結果と比較対象調査票を返送（予定）

4-1. プレ調査概要

評価シート出力例



4-2. 総評の考え方

★調査・分析の結果、4つのタイプに傾向が分かれました。

■ 標準型：

調査大学の平均のレーザーチャートと、形がほぼ同じ大学
(全体平均の評点の平均 2.9)

■ 準FM先進型：

調査大学の平均のレーザーチャートと、形がほぼ同じ大学で、
評点の平均が3.0以上3.5未満

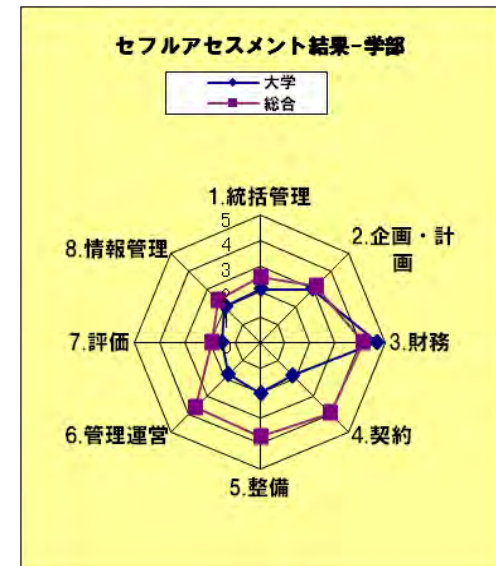
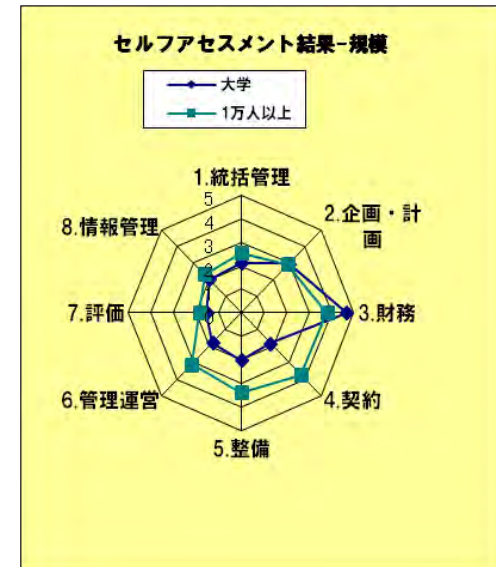
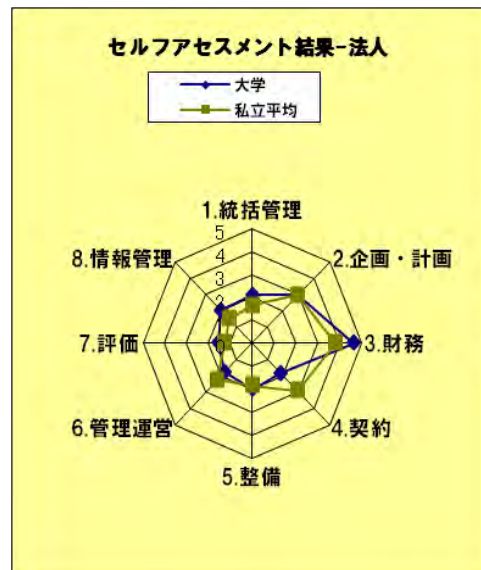
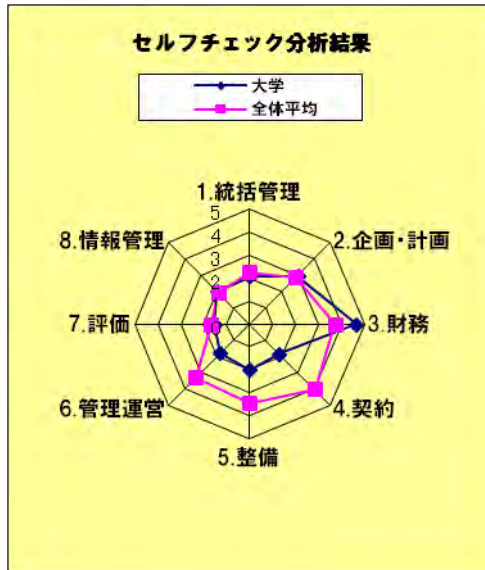
■ FM先進型：

調査大学の平均のレーザーチャートと、形がほぼ同じ大学で、
評点の平均が3.5以上

■ FM変形型：

調査大学の平均のレーザーチャートと、形が大幅に違う大学

4-3.調査結果総評



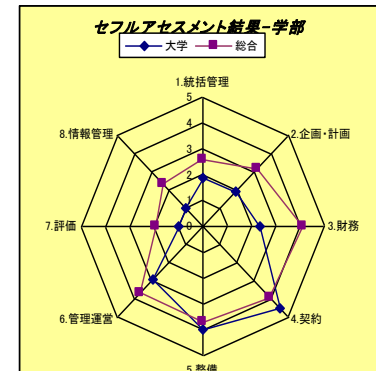
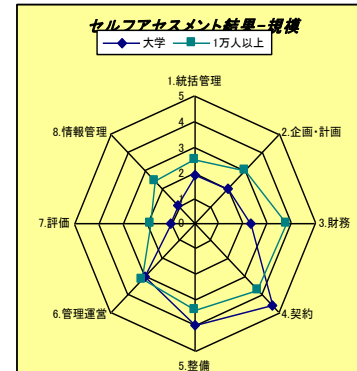
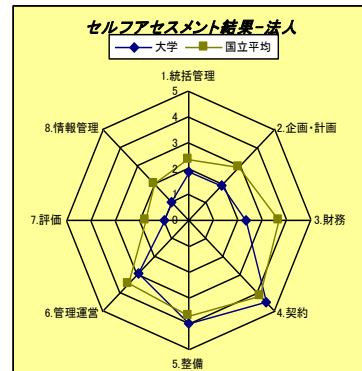
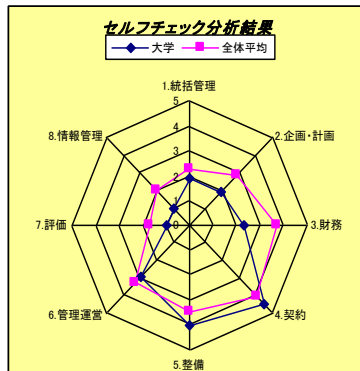
4-3.調査結果総評

A 大学 【FM変形型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕の変形型であり、2. 企画・計画、3. 財務、7. 評価、8. 情報管理が他と比べて低い。2. 企画・計画では「中期目標・計画」、「マスタープラン」、「実行計画」が低く、3. 財務の「資産管理」や、7. 評価、8. 情報管理は手をつけられていない状況である。

	①: 大学	②: 全体平均	①/②
1. 統括管理	1.90	2.25	0.844
2. 企画・計画	1.92	2.87	0.667
3. 財務	2.33	3.73	0.626
4. 契約	4.50	4.03	1.118
5. 整備	4.00	3.46	1.157
6. 管理運営	2.94	3.30	0.889
7. 評価	1.00	1.68	0.594
8. 情報管理	1.00	1.94	0.516

2.45



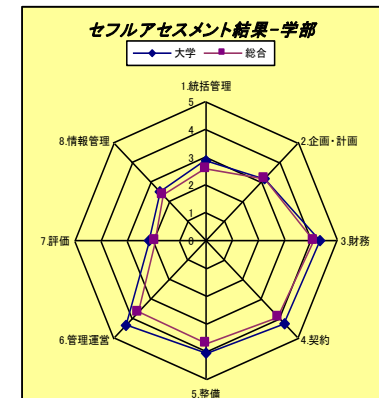
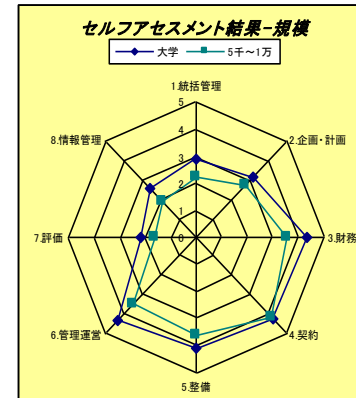
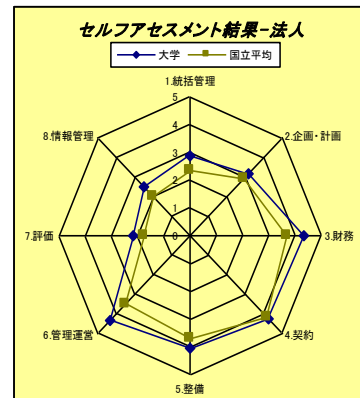
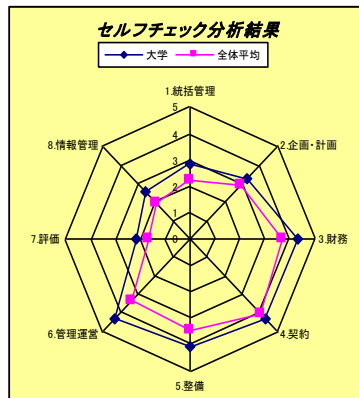
4-3.調査結果総評

B 大学 【準FM先進型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があるものの、全ての項目において高い値を示している。特に、6. 管理運営、7. 評価、8. 情報管理においては、他の大学と比べて3割程度高い値となっている。3. 財務の「予算統制」、「資産管理」、4. 契約の「適正化対応」、5. 整備の「積算」、6. 管理運営の「安全管理」は、レベル5となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.87	2.25	1.273
2.企画・計画	3.18	2.87	1.108
3.財務	4.33	3.73	1.162
4.契約	4.25	4.03	1.056
5.整備	4.08	3.46	1.181
6.管理運営	4.33	3.30	1.312
7.評価	2.17	1.68	1.287
8.情報管理	2.50	1.94	1.290

3.46



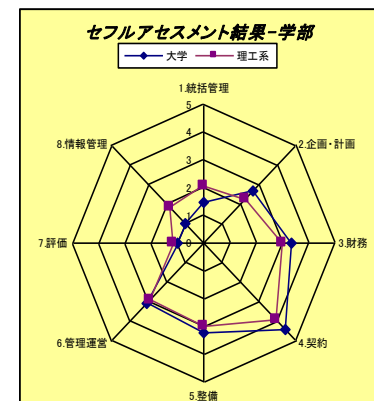
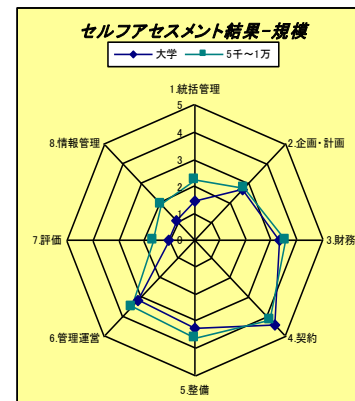
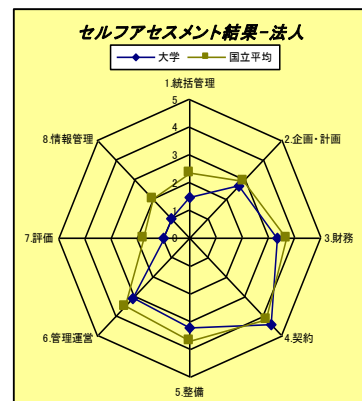
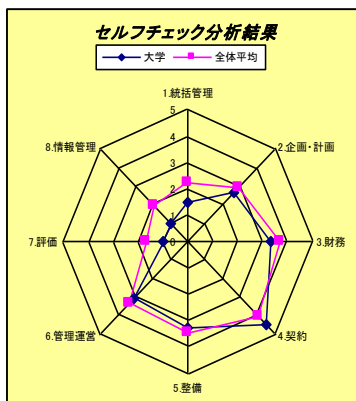
4-3.調査結果総評

C 大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、1. 統括管理、7. 評価、8. 情報管理は、平均値の半分程度となっている。7. 評価の中の「業務評価」がほとんどレベル1であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	1.47	2.25	0.651
2.企画・計画	2.65	2.87	0.922
3.財務	3.33	3.73	0.894
4.契約	4.42	4.08	1.097
5.整備	3.25	3.46	0.940
6.管理運営	3.10	3.30	0.940
7.評価	1.00	1.68	0.594
8.情報管理	1.00	1.94	0.516

2.53



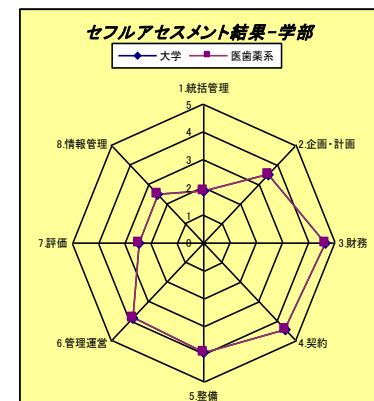
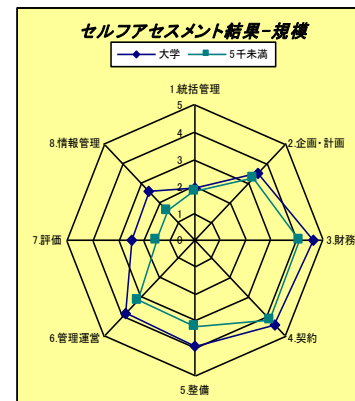
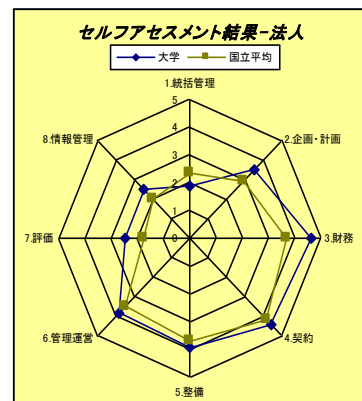
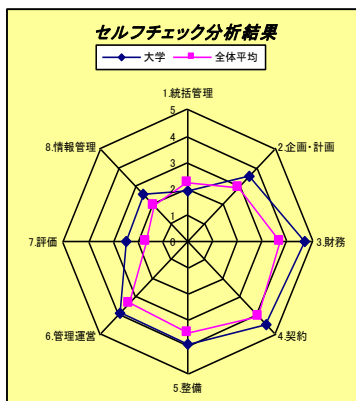
4-3.調査結果総評

D 大学 【準FM先進型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、他大学と比べると、7. 評価、8. 情報管理が高く、1. 統括管理が低い。1. 統括管理については、「組織の在り方」、「スタッフデベロップメント」、「プロジェクト制」、「FMミッション管理」、「規程類」がレベル1であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	1.90	2.25	0.844
2.企画・計画	3.52	2.87	1.226
3.財務	4.67	3.73	1.251
4.契約	4.42	4.08	1.097
5.整備	3.92	3.46	1.133
6.管理運営	3.83	3.30	1.160
7.評価	2.47	1.68	1.465
8.情報管理	2.50	1.94	1.290

3.4



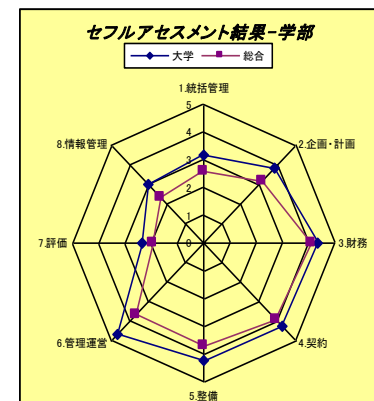
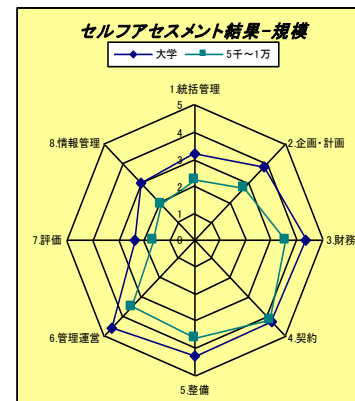
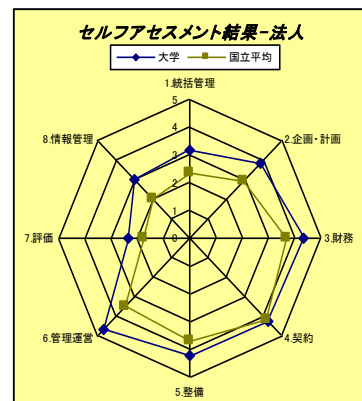
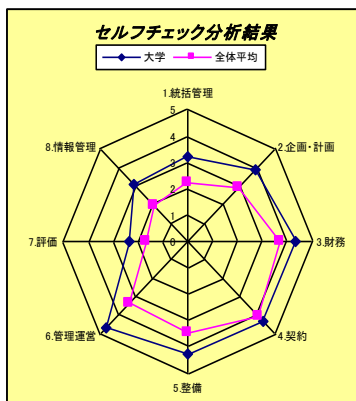
4-3.調査結果総評

E 大学 【FM先進型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があるものの、他の大学と比べると、1. 統括管理、6. 管理運営、8. 情報管理が高い。特に、1. 統括管理の「説明責任」、6. 管理運営の「運転監視」「保守点検」「清掃」「利用者対応」「構内交通管理」「環境保全」「保全」は、レベル5であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	3.20	2.25	1.421
2.企画・計画	3.80	2.87	1.323
3.財務	4.33	3.73	1.162
4.契約	4.25	4.08	1.056
5.整備	4.25	3.46	1.229
6.管理運営	4.65	3.30	1.406
7.評価	2.33	1.68	1.386
8.情報管理	3.00	1.94	1.548

3.73



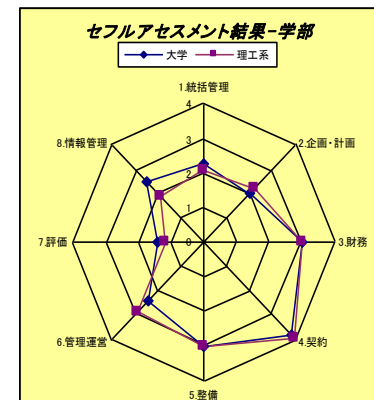
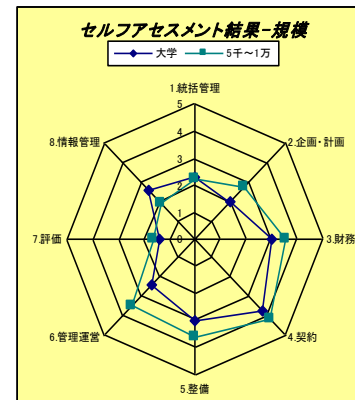
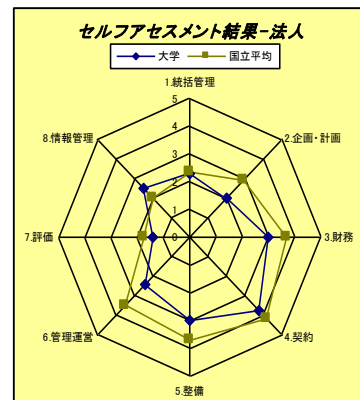
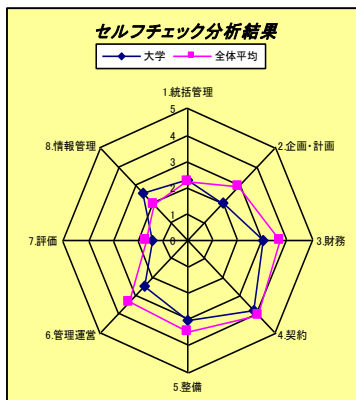
4-3.調査結果総評

F 大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、さらに、他の大学と比べると全体的に低い。特に、2. 企画・計画、6. 管理運営が3割程度低く、8. 情報管理が3割程度高い。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.27	2.25	1.006
2.企画・計画	2.01	2.87	0.700
3.財務	3.00	3.73	0.804
4.契約	3.75	4.08	0.931
5.整備	3.00	3.46	0.867
6.管理運営	2.40	3.30	0.725
7.評価	1.40	1.68	0.832
8.情報管理	2.50	1.94	1.290

2.54



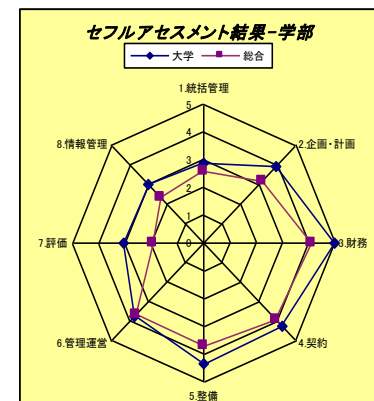
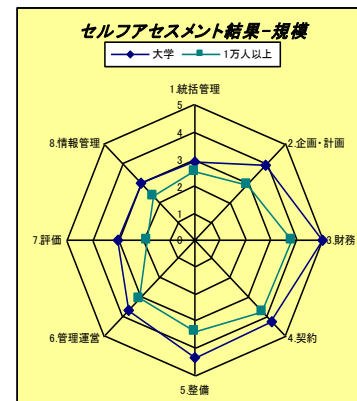
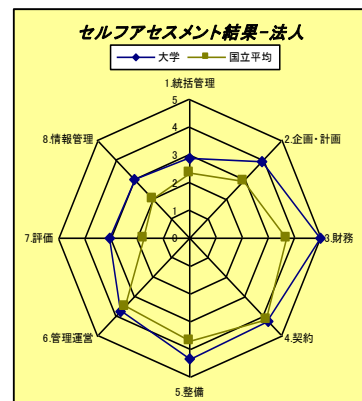
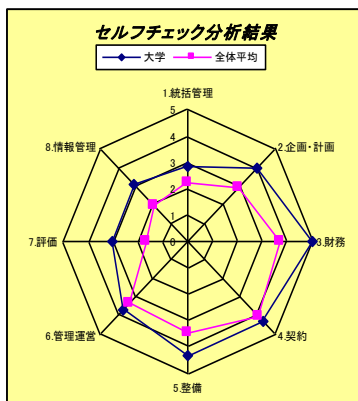
4-3.調査結果総評

G 大学 【FM先進型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があるものの、全般的に高い評価を示したFM先進大学と云える。特に、7. 評価は、「評価委員会」「第三者評価」がレベル5で、8. 情報管理は「コンピューターシステム」がレベル5、3. 財務は全てがレベル5であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.87	2.25	1.273
2.企画・計画	3.89	2.87	1.354
3.財務	5.00	3.73	1.341
4.契約	4.25	4.03	1.056
5.整備	4.33	3.46	1.253
6.管理運営	3.69	3.30	1.116
7.評価	3.03	1.68	1.802
8.情報管理	3.00	1.94	1.548

3.76



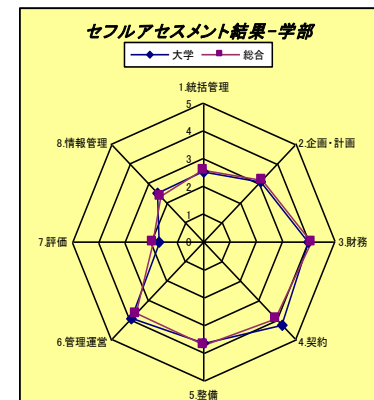
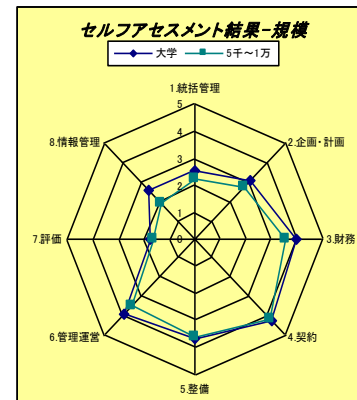
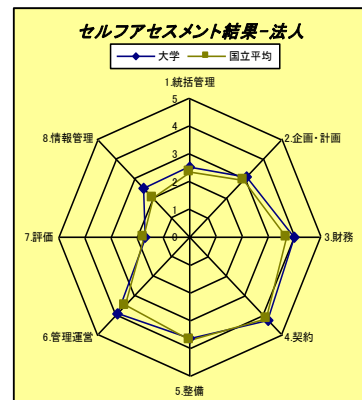
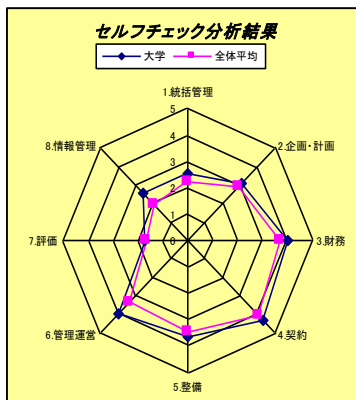
4-3.調査結果総評

H大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、ほぼ平均的な大学である。特に、8. 情報管理は平均より3割近く高く、ほとんどがレベル3であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.53	2.25	1.125
2.企画・計画	3.08	2.87	1.071
3.財務	4.00	3.73	1.073
4.契約	4.25	4.08	1.056
5.整備	3.67	3.46	1.060
6.管理運営	3.94	3.30	1.192
7.評価	1.73	1.68	1.030
8.情報管理	2.50	1.94	1.290

3.21



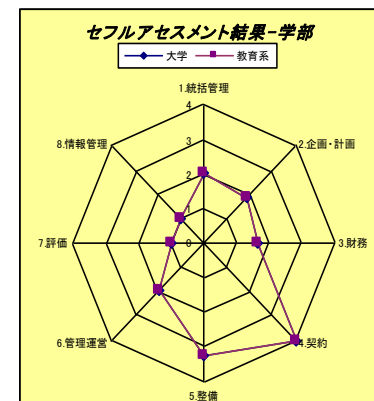
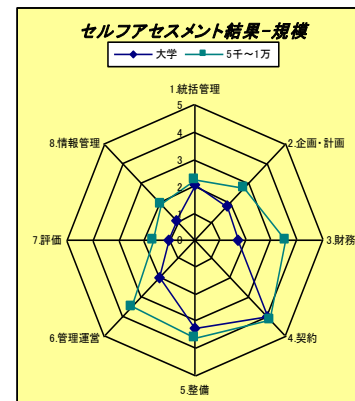
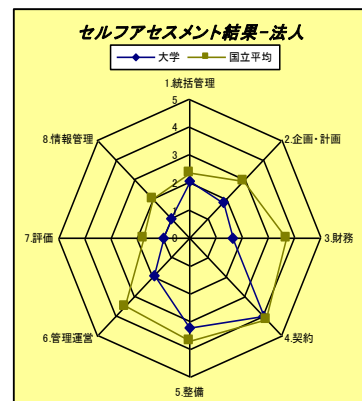
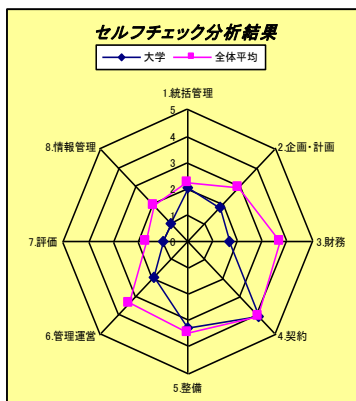
4-3.調査結果総評

Ⅱ大学 【FM変形型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕の変形型であり、3.財務、6.管理運営、7.評価、8.情報管理が著しく低い値となっている。特に、7.評価と8.情報管理については、全ての項目がレベル1となっている。

	①：大学	②：全体平均	①/②
1.統括管理	2.03	2.25	0.903
2.企画・計画	1.82	2.87	0.632
3.財務	1.67	3.73	0.447
4.契約	4.00	4.03	0.994
5.整備	3.25	3.46	0.940
6.管理運営	1.94	3.30	0.587
7.評価	1.00	1.68	0.594
8.情報管理	1.00	1.94	0.516

2.09



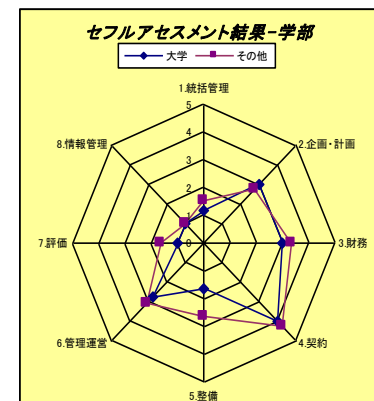
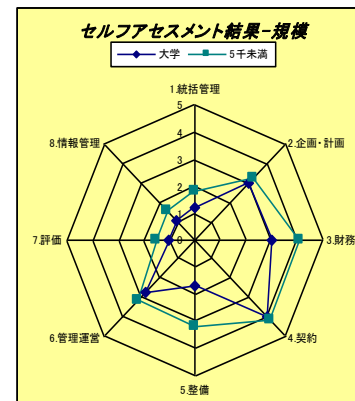
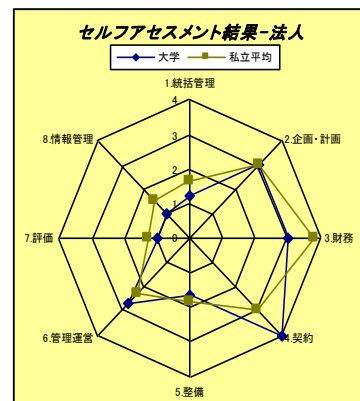
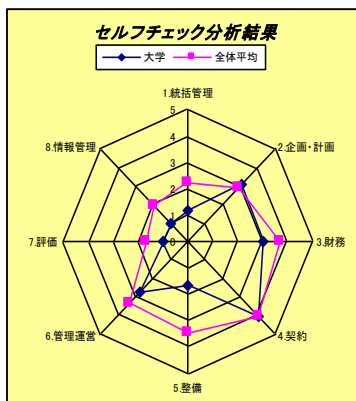
4-3.調査結果総評

K 大学 【FM変形型／私立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕の変形型であり、1. 統括管理、5. 整備、7. 評価、8. 情報管理が著しく低い値となっている。特に、5. 整備が低いのは、私立大学の特色である。なお、7. 評価と8. 情報管理については、全ての項目がレベル1となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	1.20	2.25	0.533
2.企画・計画	2.99	2.87	1.042
3.財務	3.00	3.73	0.804
4.契約	4.00	4.08	0.994
5.整備	1.67	3.46	0.482
6.管理運営	2.69	3.30	0.814
7.評価	1.00	1.68	0.594
8.情報管理	1.00	1.94	0.516

2.19



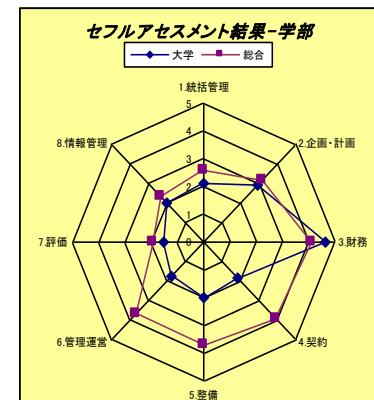
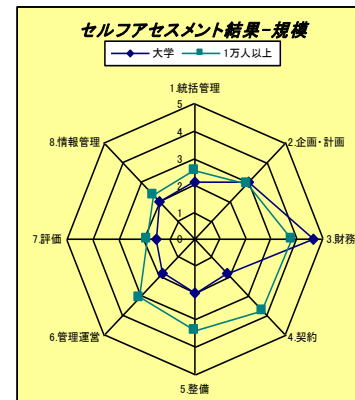
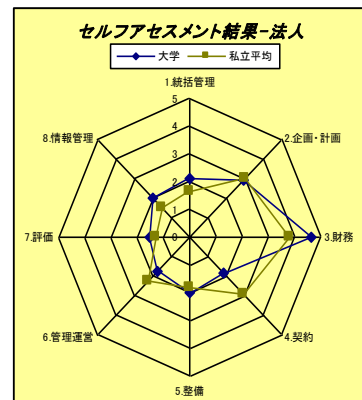
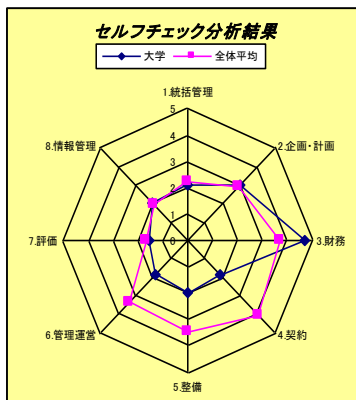
4-3.調査結果総評

Ⅰ 大学 【FM変形型／私立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕の変形型であり、4. 契約、5. 整備、6. 管理運営が低く、3. 財務が高い値を示している。比較して、3. 財務が高いのは、私立大学の傾向と思われる。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.10	2.25	0.932
2.企画・計画	2.97	2.87	1.033
3.財務	4.67	3.73	1.251
4.契約	1.83	4.08	0.455
5.整備	2.00	3.46	0.578
6.管理運営	1.79	3.30	0.542
7.評価	1.53	1.68	0.911
8.情報管理	2.00	1.94	1.032

2.36



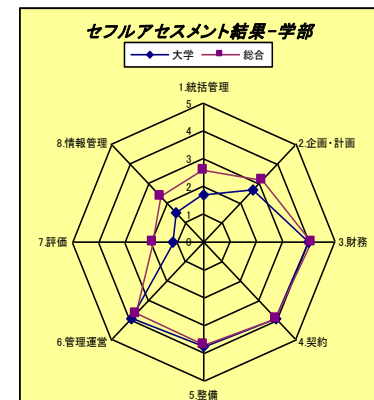
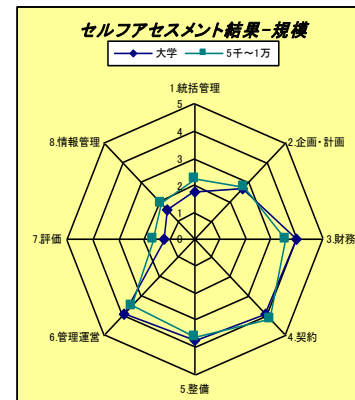
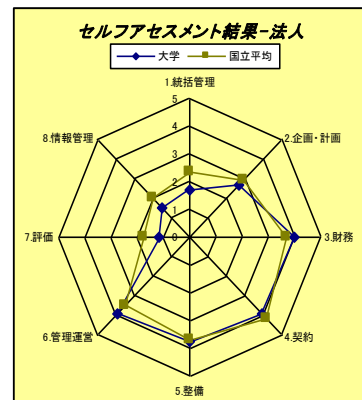
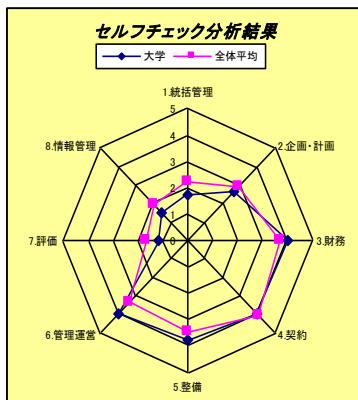
4-3.調査結果総評

M 大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、若干、1. 統括管理、7. 評価、8. 情報管理が低い。なお、1. 統括管理の「FMミッション管理」、7. 評価の「業務評価」、8. 情報管理の「FM関連情報の収集」がレベル1となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	1.73	2.25	0.770
2.企画・計画	2.67	2.87	0.928
3.財務	4.00	3.73	1.073
4.契約	3.92	4.08	0.973
5.整備	3.75	3.46	1.084
6.管理運営	3.90	3.30	1.179
7.評価	1.20	1.68	0.713
8.情報管理	1.50	1.94	0.774

2.83

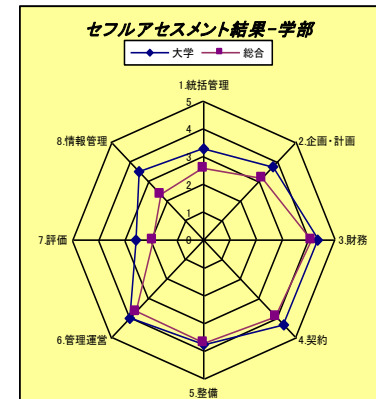
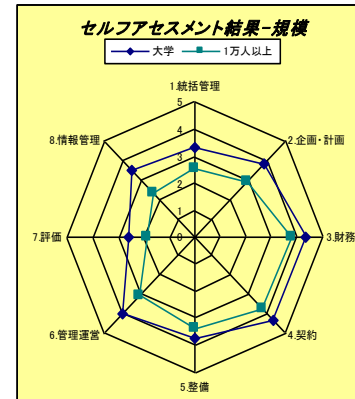
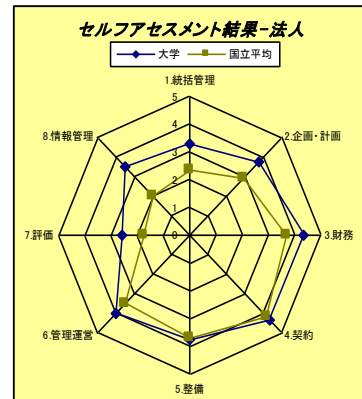
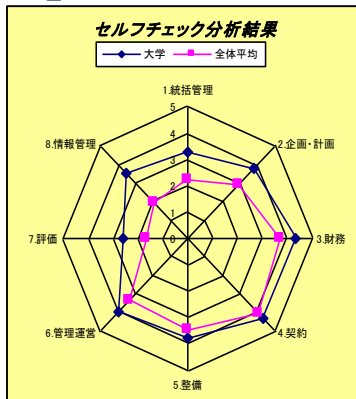


4-3.調査結果総評

N 大学 【FM先進型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があるものの、全ての項目において高い値を示したFM先進大学と云える。特に、1. 統括管理、7. 評価、8. 情報管理は高い値を示し、3. 財務の「予算編成」、「予算統制」、4. 契約の「契約手続き」、「適正化対応」、5. 整備の「積算」、6. 管理運営の「環境保全」はレベル5となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	3.30	2.25	1.465
2.企画・計画	3.79	2.87	1.319
3.財務	4.33	3.73	1.162
4.契約	4.33	4.03	1.076
5.整備	3.75	3.46	1.084
6.管理運営	3.98	3.30	1.205
7.評価	2.57	1.68	1.525
8.情報管理	3.50	1.94	1.806
	3.69		



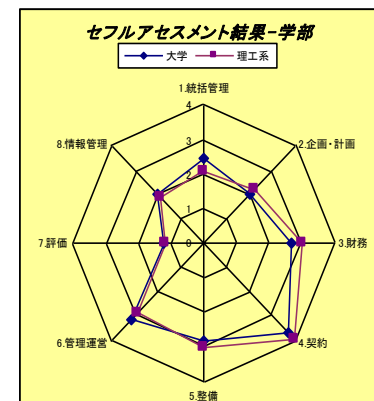
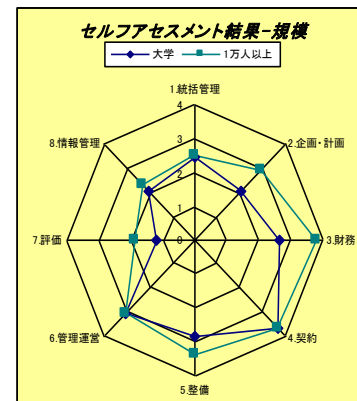
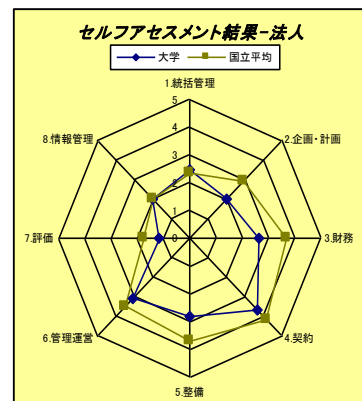
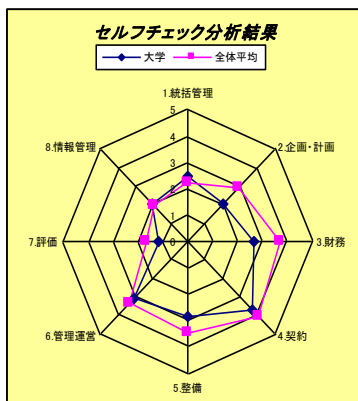
4-3.調査結果総評

○大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、2. 企画・計画、3. 財務、7. 評価が3割程度低い値となっている。7. 評価の「業務評価」はレベル1となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.47	2.25	1.095
2.企画・計画	2.08	2.87	0.706
3.財務	2.67	3.73	0.715
4.契約	3.67	4.08	0.911
5.整備	2.83	3.46	0.819
6.管理運営	3.10	3.30	0.940
7.評価	1.20	1.68	0.713
8.情報管理	2.00	1.94	1.032

2.50



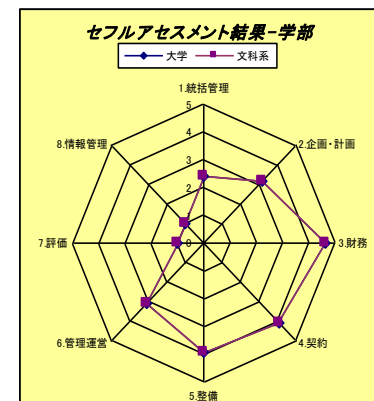
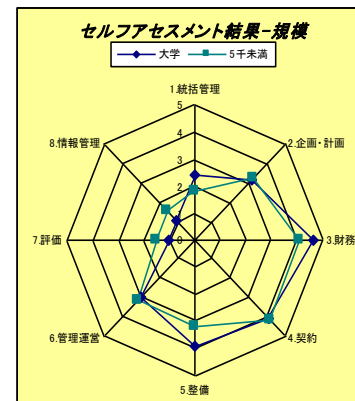
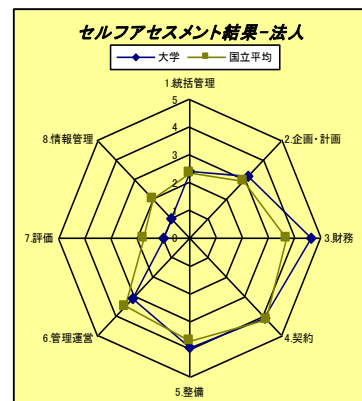
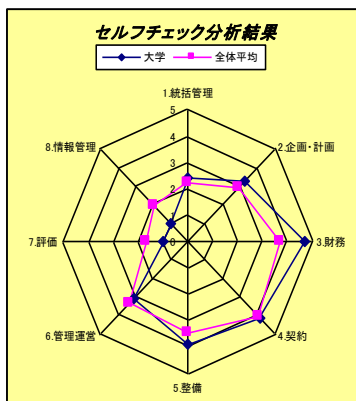
4-3.調査結果総評

P 大学 【FM変形型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があるが、7. 評価、8. 情報管理の項目は全てレベル1となっている。なお、3. 財務の「予算編成」と「予算統制」はレベル5となっている。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	2.40	2.25	1.066
2.企画・計画	3.19	2.87	1.110
3.財務	4.67	3.73	1.251
4.契約	4.08	4.08	1.014
5.整備	3.92	3.46	1.133
6.管理運営	3.04	3.30	0.921
7.評価	1.00	1.68	0.594
8.情報管理	1.00	1.94	0.516

2.91



4-3.調査結果総評

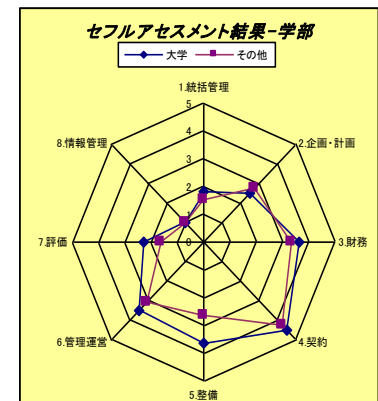
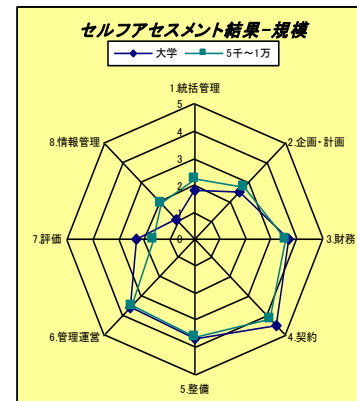
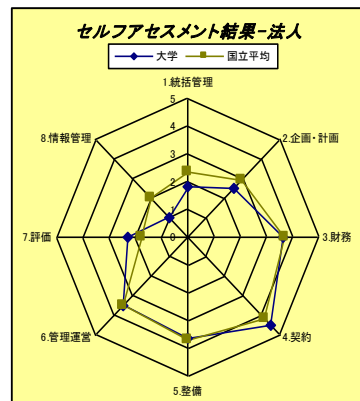
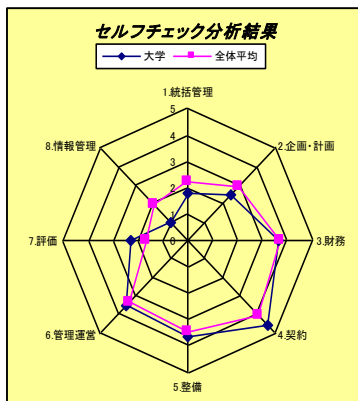
Q 大学 【標準型／国立大】

調査大学全体に見られる傾向〔規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高く、定義やプロセスが明確でない業務の評価が低い〕があり、1. 統括管理、2. 企画・計画が若干低く、8. 情報管理の項目がレベル1であった。

特に、3. 財務の「ファシリティ資産管理」、4. 契約の「入札手続」「契約手続」「適正化対応」、5. 整備の「積算」は、レベル5であった。

	①:大学	②:全体平均	①/②
1.統括管理	1.80	2.25	0.799
2.企画・計画	2.47	2.87	0.859
3.財務	3.67	3.73	0.983
4.契約	4.50	4.03	1.118
5.整備	3.67	3.46	1.060
6.管理運営	3.54	3.30	1.072
7.評価	2.30	1.68	1.366
8.情報管理	1.00	1.94	0.516

2.87



4-4.調査総括

■ プレ調査の整理

- 規則等の決まりがある業務（契約・整備・管理運営）の評価は高い。
- 「統括管理」「評価」「情報管理」の評価が低い。特に「評価」については、著しく低い傾向がある。
- 全体的に低い「統括管理」「情報管理」であるが、FM先進型の大学ではこの項目が高く評価されている。

■ プレ調査の反響等

- JFMAとして各大学に十分な周知期間をとることができなくて、部会員の限られた啓発活動によるところからサンプル数が少なかった。
- 調査大学の中には、このアセスメントを業務改善に利用しようとするところもあった。

■ キャンパスFM研究部会への示唆

- キャンパスFMをより普及させるには、「評価」「情報管理」に係る定義やプロセスを明確にさせる必要がある。
- 「キャンパスFMに係る規程類」についても、何だかの提言を必要としている。

4-5. 今後のスケジュール

H23.	6月	セルフアセスメント（案）
H23.	7月	サンプル大学における試行
H23.	11月	分析結果
H24.	2月	セルフアセスメントの完成

H24. セルフアセスメントの普及活動

★より多くの大学様にご理解いただき、キャンパスFMの啓蒙普及の一助にする

資料などのご要望ございましたら

JFMAキャンパスFM研究部会・部会長

藤村 達雄

fujimura1234@yahoo.co.jp

同・部会員

前田 明洋

Akihiro_Maeda@okamura.co.jp

までご連絡ください。

ご清聴ありがとうございました。